清滝荘在宅介護支援センター

第5回 ネットワーク研修会

2012.6.17(Fri)

「地域の力をつなぐ」
～今私たちにできること～

５回目を迎えた今回のネットワーク研修会は、御所市地域包括支援センター　池田　智英氏に協力を頂き、ひとり一人の力を繋ぐことで支援の輪が広がった事例をお話頂きました。繋がる事の大切さについて69名の参加者のみなさんと「今　私たちに出来ること」を改めて考えた研修会となりました。

認知症があり、家事能力がなく、病院受診を拒否する妻は、夫なしでは生活出来ない状況。
相談者の夫は、すぐにでも入院治療が必要な状況にも関わらず、妻をおいては入院できないと主張。

そんな２人を、地域包括支援センターを中心に、在宅介護支援センター、医師、市役所、社会福祉協議会、民生委員、自治会長、近隣住民などの協力で囲む支援の輪が広がり、疎遠になっていた家族との再会を果たし、安心して暮らせる状況に繋げる事が出来た事例を紹介。

連携することで出来た問題解決

在宅介護支援センターとの連携

介護保険の申請とサービスの検討を行う。

課題①　介護保険利用に繋げるための病院受診
ご本人は受診を拒否
（何度も説得するも受診につながらず）

課題②　相談者の体調
入院治療の必要性

医師との連携

課題① 介護保険申請に必要な主治医意見書のお願い
連携① 先生の協力により、往診

課題① 定期的な受診と点滴治療ができていない。
課題② 入院治療が必要
連携① 夜間に状態を確認し、必要に応じて点滴治療を検討

地域の方との連携

【安全面】

民生委員へ地域での見守りを依頼

自治会長さんにも協力依頼

近隣の人への声かけと、見守りの依頼

更に、
安全面の確保としてガスの閉栓や施錠の確認の検討

福　祉との連携

【食事面・生活面】

必要な場合の福祉サービスの依頼

配食サービス　福祉課

医療との連携

連携①　今後の生活の方向性の検討
連携②　入院治療の支援
連携③　病院と家族をつなぐ支援

病院相談員　地域包括支援センター　社会福祉協議会　在宅介護支援センター　娘が住む町の市役所職員　娘

幼少期に別かれ、音信不通だった娘を県外の市役所の協力で発見

入院生活と退院後の生活を支えるためのケース会議

在宅生活が可能？

・金銭管理は権利擁護で行う。　社会福祉協議会

・在宅生活は困難のため、入所で検討（要介護2）

地域包括支援センター
在宅介護支援センター

「何か出来る事はないですか？」
と声をかける。

自治会に協力してもらいながら、様子をよく見ながら、近所づきあいを大切にする。

気になる人がいたのに、声をかけないまま、ある日から姿を見なくなった。あの時、声をかけて、民生委員さんに相談すれば良かった。と心残りがある。

実は、日常のあいさつさえ出来なかったりする。
まずは、「こんにちは」って声をかけることが、
ネットワークの第一歩なんだ

よく似たケースを経験した。
どこの人かも分らず、市役所や地域の事業所に声をかけて連携をとった。

様子を確認している。

「手伝える事があれば、声をかけて下さいね」と、声をかける。

こんな時、どこに相談すべきかを、知っておくことも大切だと思う。

みんなで語り合ったこと。

汚れた同じ服を着て、いつも近所の公園をうろうろしているおじいさん。
家の周囲は散らかっており、夜になっても電気はついておらず真っ暗。

もし･･･自分の近所に住んでいたら
もし･･･事業所の前をいつも通りかかっていたら
もし･･･道で見かけたり、すれ違ったら

そんな時･･･
私たちには何ができる？？

特別なことはできないけど、あいさつする。

自宅で出来た野菜をお裾わけしたい。

長い時間をかけて、少しづつ相手の反応を見ながら話をする。

事業所内で話し合って、継続的に関係性を築きたい。

声をかけるきっかけが必要

自宅で出来た野菜をお裾わけしたい。

民生委員さんに連絡する。

実生活で毎日出会う人がいる。挨拶するその次の一歩がなかなか出ない。

市役所や民生委員さんに連絡する。

いかに近所の方が気づくか

「どうしましたか？」と声をかけてみる

状況や服装など特徴を覚えて、地域包括に連絡します

近所のひとり暮らしの人の所へご飯や回覧板を持って行く。

様子を気にかけておく。

挨拶をします。

市の見守り体制を整え、そこから警察に繋げるようにしたらどうかな。

気になっても、なかなか声が掛けられない。挨拶もなかなかできない。

一度、声をかけたら、何度も声をかけられるようになると思う。

警察に連絡する

知っている人なら声をかける。
知らない人なら声をかけ辛いので、「誰かに言わないと」と思う。